

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 2月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503874		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム みのり中の島		
所在地	札幌市豊平区中の島1条3丁目7番3号 (電話) 011-813-1294		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年1月27日	評価確定日	平成21年2月10日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム みのり中の島」は、運営者が高齢者の医療と福祉を重要視し、在宅サービス事業・入居対応の施設事業など、長年の実績をもとに、平成18年に開設したホームである。「個人の満足・喜び・幸福」を運営の中心に据え、管理者と職員は日々のケアを通して真摯に取り組んでいる。当ホームは地下鉄駅から徒歩で5分ほどの近くにあり、生活環境にも恵まれている。その環境で利用者は買い物・散歩・外食・喫茶店などで過ごし、趣味の麻雀や編み物、習字、裁縫、お茶をたてるなどを楽しんでいる。また、盛り沢山の催しを楽しみ、地域住民との交流も深めている。職員は利用者・家族との信頼関係を最も大切にして笑顔のある暮らしを支えている。

【情報提供票より】 (平成20年12月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年3月20日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤	15人, 非常勤 0人, 常勤換算15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	3階建ての	2~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	光熱水費:20,000円 暖房費(11~3月):10,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,400円	

(4) 利用者の概要(12月29日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名	
要介護1	6名	要介護2	4名			
要介護3	4名	要介護4	4名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	83.9歳	最低	73歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人よつばクリニック 医療法人札幌中央病院 星川歯科医院
---------	--------------------------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果をユニット会議で話し合い、課題について具体的に取組んだ。火災対策では年に2回避難訓練を実施し、今後は夜間を想定した訓練を近隣の協力を得て実施する予定である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員が項目ごとに分担して記入し、それらを管理者がまとめ回覧で確認した。次回には職員間で話し合う過程に重きを置きたいと考えている。サービス評価をする中で職員は利用者が地域に溶け込む大切さを再認識している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。会議では外部評価の結果、家族に行ったアンケートの結果などを報告し、率直な意見交換がなされている。議事録は「質問」と「答え」にまとめてあり具体的で分かりやすい。議事録をその都度、家族に送付し報告している。職員は閲覧やユニット会議で内容を共有し運営に生かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム日より「みのり通信」に行事や暮らしを載せて報告している。家族の来訪時には意見が言いやすいように問いかけ、気軽に話し合える雰囲気を作っている。家族の率直な意見を吸い上げるため、職員間でアンケートの方法を話し合い、無記名による調査を実施した。その結果を運営推進会議・ユニット会議の議題に載せ、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の草取りやゴミ拾い、歩道の花壇づくりに、利用者・職員も作業に参加し地元との作業を通して自然な交流を進めている。近くにある福祉施設の行事に自由に参加し、おやつ作りを楽しんでいる。町内会の行事、地域団体のお祭り、中学校の合唱コンクールなどに出かける一方、中学生の職業体験、ボランティアを受け入れ、地元との交流が深まっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を、地域密着型の視点からその意義を全員で話し合い見直した。穏やかに、その人らしく過ごせる環境をつくり、地域の中にとけこみ笑顔あふれる暮らしを支える、という内容の理念を分かりやすい表現でつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見やすい所に掲げ、パンフレット、ホームページにも載せ周知している。朝の申し送り時に理念を唱えて共有を図っている。利用者の個性を生かし、行事などを通して地域住民との交流を進めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の夏祭り、日帰り温泉、いちご狩り、定期的なコンサート、映画鑑賞などに参加している。昨年は町内会と共催で地域の独居高齢者や法人のデイサービス利用者との合同で「昼食会」を開催した。80名程の参加があり、認知症という垣根を越えた住民との関係が築きあげられつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員が項目ごとに分担して記入し、それらを管理者がまとめ回覧で確認した。前回の外部評価の結果をユニット会議で話し合い、具体的に取り組んでいる。職員は利用者が地域に溶け込む大切さを再認識している。	○	自己評価の項目を会議などでじっくり話し合い、求められている内容について確認し合う、その過程を有意義な機会として次回のサービス評価につなげることに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。会議ではサービス評価の結果、家族に行ったアンケートの結果などを報告し、率直な意見交換がなされている。議事録は「質問」と「答え」にまとめてあり具体的で分かりやすい。議事録をその都度、家族に送付し報告している。職員は閲覧やユニット会議で内容を共有し運営に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は事務的な報告についても市・区を訪問し、担当者と直接に情報交換をするように努めている。暖房費用やおむつ支給など、利用者の個別な相談を関係部署の担当者と話し合い解決に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行の「みのり通信」には行事や暮らしを載せ、金銭出納帳のコピー・領収書を添えて送っている。家族の来訪時には健康や暮らしの様子を報告し、遠方の家族とも電話で頻りに話し合っている。職員の異動・退職も、その都度報告している。	○	ホーム便りに全体的な報告の他、普段の暮らしがより分かるような、個人のメッセージ欄をつくるなど、紙面の工夫に期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には意見が言いやすいように問いかけ、気軽に話し合える雰囲気を作っている。家族の率直な意見を吸い上げるため、職員間でアンケートの方法を話し合い、無記名による調査を実施した。その結果を運営推進会議・ユニット会議の議題に載せ、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの関係を重要視し、新規事業開設時の他は法人内の異動を極力抑えている。職員の事情で異動・離職する場合には本人が利用者に挨拶をし、職員はいつものように自然に接し精神的な面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修体制は整備されており、運営者は職員の育成に力を注いでいる。新人研修、段階に応じた継続研修の年間計画があり、勤務を調整して平均して全職員が参加できるように取り組んでいる。外部研修、法人内研修の内容を職員間で共有し、医療面の知識・ケア、認知症対応などを日々学んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は区の「グループホーム管理者会議」に参加している。会議には職員の研修や交流の企画がない状況もあり、職員は法人内のグループホームと交流している。法人が経営している4つのグループホームが集まる「学びの会」に参加し、相互に日々のサービスに役立てている。また、個人的に他事業所の見学も行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族の見学を勧め、来れない時は訪問をして入居前の話し合いを充分にとっている。入居後は家族の宿泊も受け入れ、ゆっくりと環境に馴染めるように関わっている。職員は利用者信頼関係を築くために声かけや会話を多くし、利用者の中を取りもちながら不安を取り除くように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	苦労話、地元の歴史など、会話の中で利用者の生きてきた時代や知識を学ぶことが多い。昔の料理、野菜の育て方、お茶立てなど、得意なことを教えて貰い、食後には利用者と一緒にゆったりと過ごしている。利用者は親の目で職員を慈しみ、気遣いを見せることもあり、その優しさにも支えられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を積極的に聞きだし、介護計画に反映している。ほとんどの利用者は何らかの方法で希望を表現できるが、伝えられない利用者の場合は表情の変化から探り、試しながら意向を把握している。ユニット会議で利用者の希望を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に家族からの情報や意向、本人の希望を計画作成者が聞いて全職員で話し合い暫定的な介護計画を立て、入居後の利用者の状況により、2週間から1ヶ月で見直しを行っている。定期的な介護計画作成時も、家族の意向を確認して作成し、家族の来訪時や郵送、FAXで計画の説明と確認を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月毎の見直しを行っている。ユニット会議で毎月利用者の状況を話し合い、目標が達成された時や、排泄や身体的変化、入院など状況が変化した時、その都度現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況により、通院の送迎など柔軟に対応している。運営推進会議を通して地域住民の認知症に対する家族の相談に乗ったり、町内会で、ホーム長が認知症の講演会を行ったりの活動をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の継続か協力医療機関にするか確認を取っている。受診は家族の状況に応じて職員が送迎を行っている。家族が受診の送迎をする時は、利用者の状況を書いた手紙を渡したり、電話連絡するなどかかりつけ医との関係も築きあげられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「看取り（重度化）に関する指針」を作成し、看取り体制や医療機関、在宅への送迎について説明を行っている。看取りは行う方針であるが、現在まで行った事はない。重度化した場合の対応について、医師、看護師の指導のもと、簡単な対応が出来るように全職員で知識を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関する研修会を行い、全職員で配慮している。排泄に関しては、耳元で声かけしたり、口腔ケアを行った後も、すぐ入れ歯を入れるなどの配慮をしている。面会簿は個別に記入して貰い、個人記録は、ドアの付いている見えない所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は一日の流れで決まっているが、朝食などは起きた時点で食べて貰う様にしている。利用者に「今日は何をするの？」などと聞いて、意向や希望に沿った対応が出来るように配慮している。利用者の意向に直ぐ対応出来ない時は、きちんと説明をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に応じて、食事の準備や茶碗洗い、茶碗拭き、味付けなどを手伝って貰っている。献立は、利用者の希望を取り入れながら職員が交代で作成している。利用者との話に出た、昔作った料理などを一緒に調理する事で、楽しい食事になるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前入浴も可能で、午前中は見守りで入浴可能な利用者が入浴している。日曜日以外を入浴日として、一人週2回を目標に入浴をしている。入浴の順番などは、利用者の希望に合わせて配慮している。利用者の希望を聞いて、同性介助を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意分野を生かして、ベランダでの野菜作りや花作り、モップかけ、包丁研ぎなどを手伝って貰っている。趣味の麻雀や編み物、習字、裁縫、お茶をたてるなど日々楽しんだ生活ができるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や天候に応じて、四季を通じて散歩に出かけている。夏季は、散歩しながら近隣の庭の花を見せて貰ったり、ベランダに椅子を置いて、日光浴をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はオートロックになっているが、ユニットの玄関は施錠していない。利用者が外出した時は、一緒について行き安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の指導のもと避難訓練を行うと共に、自主訓練も年1回行っている。運営推進会議において、避難訓練を議題として取り上げ近隣に協力を依頼しているが、まだ具体的な話し合いには至っていない。	○	今年は、夜間を想定した避難訓練と近隣の協力体制を具体化していく予定なので、その取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事、水分の摂取量を記録して健康状態の把握に努めている。水分摂取量は食事以外で1500ccを目標に、摂取量が少ない利用者にはゼリーや飲み物の種類を変えるなどの工夫をして摂取しやすいように配慮している。	○	法人内の管理栄養士に献立を見て貰い、定期的に栄養チェックするよう期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした居間とベランダが設けられていて、利用者はのびのびと居心地良く過ごせるような空間作りをしている。台所は対面式のキッチンで、食事の準備の様子や料理の匂いを身近に感じられるように工夫している。居間や玄関にはさり気ない季節の装飾をするなど、自然な生活の中で季節感が感じられるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には、プライバシーを配慮して名前を付けず、それぞれの利用者の好きな縫いぐるみなどを飾り、居室が分かるように工夫している。居室には、使い慣れた筆筒や椅子などの家具が持ち込まれ、利用者が安心して居心地良く過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。